

長谷川存古履歴及び著書論文等目録

履 歴

1937年6月15日生まれ

1956. 3. 岡山県立津山高等学校卒業
1956. 4. 京都大学経済学部入学
1965. 3. 京都大学経済学部卒業
1968. 4. 大阪大学大学院文学研究科英語学専攻修士課程入学
1972. 3. 大阪大学大学院文学研究科英語学専攻修士課程修了
1972. 4. 大阪大学大学院文学研究科英語学専攻博士課程進学
1975. 3. 大阪大学大学院文学研究科英語学専攻博士課程所定単位取得退学
1975. 4. 桃山学院大学専任講師
1978. 4. 桃山学院大学助教授
1979. 4. 関西大学文学部助教授
1986. 4. 関西大学文学部教授～現在に至る

著書・論文等目録

〈著書・編書〉

- 『語用論と英語の進行形』単著（関西大学出版部，2002年3月）
『発音・綴り・語形成』（『講座・学校英文法の基礎』第1巻）共著（研究社出版，1983年3月）
『英語のテンス・アスペクト・モダリティ』共編（英宝社，2005年10月）

〈論文〉

- 「英語進行形の意味論」(大阪大学文学会『待兼山論叢』第6号, 文学編, 1973年)
- 「完了形について」(大阪大学大学院英文学談話会 *Osaka Literary Review*, No. 12, 1973年)
- 「語用論への一視角」(*Osaka Literary Review*, No. 13, 1974年)
- 「『自然言語の論理』に関する一考察」(桃山学院大学『人文科学研究』13巻1号, 1977年)
- 「『発話関数』試論」(*Osaka Literary Review*, No. 17, 1978年)
- 「意味論と語用論——IFをめぐって——」(『毛利可信教授退官記念論文集』1980年)
- 「Jane Austen の進行形」(関西大学英文学会『英文学論集』第20号, 1980年)
- 「行為解說的進行形とその Context」(関西大学英文学会『英文学論集』第24巻, 1985年)
- 「Illocutionary Act の分類」(関西大学文学会『文学論集』第35巻, 第1号, 1985年)
- 「Declarations と Extra-linguistic Institution」(関西大学英文学会『英文学論集』第25号, 1985年)
- 「行為解説の進行形」(TAM (Tense, Aspect, Modality) 研究会『TAM 試論集』第1号, 1988年)
- 「進行形と動詞のアスペクト(1)」(『TAM 試論集』第2号, 1989年)
- 「進行形と動詞のアスペクト(2)」(『TAM 試論集』第4号, 1991年)
- 「心理動詞の進行形」(『成田義光教授還暦祝賀論文集』英宝社, 1992年)
- 「発語内行為と談話」(関西大学文学会『文学論集』第46巻, 第4号, 1997年)
- 「‘Will/shall’ + Progressive Infinitive の語用論」(関西大学英語学研究会 *Neo-Anglica*, 創刊号, 2000年)
- 「認知文法における進行形の理論とその問題点」(TAM 研究会『TAM 研究論集』第7号, 2003年)
- 「Performatives と Illocutionary Acts」(*Neo-Anglica*, 第3号, 2004年)
- 「Performatives は Declarations か?」(『言葉のからくり——河上誓作教授退官記念論文集』英宝社, 2004年)
- 「いわゆる『行為解説の進行形』の概念構造について」(『英語のテンス・

アスペクト・モダリティ』英宝社，2005年)

編注

Jane Austen, *Mansfield Park*, Vol. II, 共編注 (関西大学出版部, 1982年)

書評

「水光雅則『文法と発音』」(『現代英語教育』第22巻, 第8号, 1985年)

辞典項目

『新英語学辞典』(記号論理学・数理英語学関係10項目, 研究社, 1982年)